

# 生ごみ自家処理 こうしてためています!

中野・コンポスト連絡会

代表 貞弘 優子



環境イベントに参加

## ダンボールコンポストよ、野菜になって還ってこい!

都会のだ真ん中、人口密度は東京 23 区中で 2 位、緑化率や公園面積は 22 位、そして清掃工場がない。そんな中野区で私たちはダンボールコンポストの普及活動をしています。

これまで家の生ごみを色々な方法で堆肥にしてきた私には、ダンボールコンポストとの出会いは目から鱗! コンパクトで簡単なこのダンボールコンポストをみんなに知ってもらいたいとの思いから、2008 年 2 月に会を設立。普及活動として、出前講座や環境イベントへの参加、そしてダンボール箱や基材(ダンボール箱の中に入れるもの)などの販売をしています。

活動は 5 年目となりました。ダンボールコンポストの基材は年間 200 個弱が中野区内のみならず区外の方にも利用されています。でも、都会ではできあがったコンポスト(堆肥)の用途が限られるのも現実です。そこで、生ごみ減量を目的としてダンボールコンポストを実践している方々のために「完成したコンポストを新しい基材と無料で交換する」というシステムを早くから取り入れました。しかし、無料交換の利用は年間 10 個程。継続的にダンボールコンポストを使って生ごみ処理しているリピーターは限られた方々というのが実態と思われま

生ごみからのコンポストづくりは、コンポストを花や野菜作りに利用して初めて循環の輪がつながるのです。会の設立当初から生ごみコンポストの出口(利用先)は私たちの大きな課題となってきました。公園の花壇づくり(「中野区花と緑のコンクール」入賞歴 3 回)や児童館でのグリーンカーテンなど、区内でできることを続けています。本来なら、マンションのベランダでも続けられるダンボールコンポストは大都会でこそ力を発揮するはずなのですが、有効な出口がなかなか見つけられずにいました。

そんな中でこの 3 月、練馬区の体験農園の一区画が借りられるようになりました。体験農園は市民農園とは少し趣が違い、園主の農業指導の下での野菜作りを行ないます。中野区にも市民農園があるのですが、たとえ抽選で当たっても区画は毎年変わってしまいます。体験農園は同一区画を 5 年間継続して借りることが出来ます。このことは、私たちにとって大変嬉しいことなのです。

コンポストが土の中で力を発揮するには長い時間かかると考えられています。同じ区画で施肥を継続して行かないとその効果は計ることができません。今回は園主に許可をいただき、ダンボールコンポストの施肥ができることになりました。練馬区の体験農園は当会の「実験農園」となるもので、来年 3 月、育ち方や収穫、食味などをほかの区画と比較して簡単な発表をすることを企画しています。

こうした活動を続けていく中で、多くの都市生活者と農業者の理解が得られ、生ごみが大量に有効利用されるようになれば、コンポストと産直野菜の交換システムの実現も夢でない…。

体験農園では早くもトマトや枝豆、トウモロコシなどを収穫。新鮮でおいしい野菜に巡り合えて、会員一同しあわせ!! 小さな一区画ですが、私たちに喜びを与えてくれる大切な畑、大きな前進です。「野菜づくりを楽しみ、コンポストづくりをがんばるぞー!」これが会員の合言葉になりそうです。